

5. 管内養豚場の豚熱ワクチン接種適期の検討

豊後大野家畜保健衛生所・1) 大分家畜保健衛生所

○平島慎也・(病鑑) 中出圭祐・(病鑑) 森学・(病鑑) 河上友・病鑑 榎園秀平¹⁾

【はじめに】本県では令和5年9月より豚熱ワクチンの接種を開始。令和7年度から、母豚の抗体価より移行抗体消失日齢を推定する接種適期推定プログラム（以下「プログラム」）を活用し、簡易に肥育豚の接種適期の検討を開始。今回、管内繁殖養豚場4農場についてプログラムにより移行抗体消失日齢を推定するとともに、実際の接種日齢と比較。また、推定と実際の間で乖離の大きかったA農場について、子豚期の経日的な移行抗体価の推移を調査し、プログラムから推定した移行抗体消失日齢と比較するとともに、当該農場に対し適切なワクチン接種を指導したので概要を報告する。

【材料及び方法】(1)豚熱免疫付与状況調査：管内4養豚場（A～D：一貫もしくは繁殖）の母豚120頭の血清を用い、豚熱ELISA検査（ニッポンジーン社製）を実施。ELISA検査陰性個体に対し中和試験を実施。(2)A農場日齢ごとの移行抗体価：30～50日齢の肥育豚30頭の血清を用い、中和試験を実施。プログラムは、令和6年度大分県業績発表会における榎園らのプログラムの方法を活用。

【検査結果】(1)①豚熱免疫付与状況調査：4農場全て陽性率100%であった。②母豚群のS/P値平均：Aを除く3農場は0.68～0.81、A農場は0.3。③プログラムによる移行抗体推定消失日齢：Aを除く3農場は42.3～48.3日齢、A農場は22.3日齢。④ワクチン接種日齢と移行抗体推定日齢の差：Aを除く3農場は3.3～7.3日、A農場は37.7日。(2)30日齢では中和抗体価32倍以下が7/10頭、50日齢では9/10頭であった。

【A農場におけるワクチン接種指導】A農場は、移行抗体の消失後、免疫付与されていない肥育豚が多数存在。また、母豚群S/P値平均が他農場より低かったことなどから、日齢ごとの抗体検査結果に基づき、ワクチン接種日齢を再検討することを農場と協議。結果、生後30～40日齢が移行抗体消失日齢であることを基に、本年9月より実際の接種日齢を生後60日齢から40日齢に変更。今後、変更後の免疫付与状況を確認。

【まとめ及び考察】管内4農場の豚熱免疫付与状況を確認した結果、良好な結果であった。B～D農場ではプログラムの推定した接種適期と実際の接種日齢に大きな乖離はなく、プログラムの有用性を確認。一方、A農場については、プログラムから推定した接種適期が実際より著しく早く、プログラムによる推定が適切ではない事例と判断した。このことは、S/P値のデータ分布の歪みが大きいことが要因と考えられ、こうした事例では追加検査を実施し、適切な接種適期を検討することが必要であると示唆された。今後もプログラムによる推定日齢やS/P値の分布を確認しつつ、日齢ごとの中和抗体検査を実施し、管内での豚熱発生予防に努めたい。